

<別紙>

『実験廃液および廃棄試薬類の保管量報告の様式』

廃棄物及び廃水等取扱作業部会

処理を希望する実験廃液および廃棄試薬類（不要薬品類）がありましたら、廃液と廃棄試薬（廃試薬）について別々にエクセルファイルに記入し（いずれの場合も数字は半角で入力すること）、電子メールに添付、またはフロッピーディスク(FD)に保存して、指定された期日までに指定された委員宛に提出して下さい。また、不要薬品類の有効利用のため、不要でも使用できる薬品は希望者に引き取ってもらいます。作成いただく廃試薬類リストには、該当する薬品名の先頭に「*」を付して頂きますようお願いいたします。集計後、ISO事務局を通じて利用できる試薬リストを公開する予定です。

取りまとめの都合上、提出いただく形式には、格段のご協力をお願いいたします。なお、メールおよびFDには、学部名、学科・講座名、連絡責任者、内線番号、メールアドレスを明記して下さい。またエクセルファイルの名前には、学科（講座）名と連絡先の教職員名を記してください。

【実験廃液リスト】

— 実験廃液のリスト記入に際しての注意 —

廃液は、下記に従って色区分した容器に保管し、業者に引き渡すこととします。廃液の種類による色区分にご注意ください。

<色区分> 緑：水銀系廃液、 黒：難分解シアン廃液、 青：シアン系廃液、
灰：フッ素磷酸廃液、 ピンク：フッ素含有廃溶媒、 オレンジ：ハロゲン含有難燃性廃液、
黄：重金属廃液、 茶：高粘性オイル類（廃油等）、 赤：上記以外の可燃性廃液、
白：上記以外の難燃性廃液

業者引渡しの際には、内容を示す色のビニールテープ等を廃液容器に貼っておいてください。クロロホルムなどの含ハロゲン化合物を含有する難燃性廃液を「オレンジ」、また廃油等の高粘性オイル類を「茶」で色区分してください。特に、オレンジ色で色区分されるハロゲン含有廃液は、扱いに特別な配慮が必要となりますので、確実に指示していただくことが必要です。また、廃液用の空容器を必要とする場合には、その必要数を添付ファイルに記入してください。

<提出リストの例（書式）>

担当教官名：○○○○ 学科：○○○○ 内線：○○○○

色区分	名 称	容器容量 単位：L	本数	総量	総量単位 Lまたはkg	備 考
赤	トルエン廃液	18	5	85	L	アセトン、スチレンを5% 以内含有
白	水酸化ナトリウム水溶液	3	5	13	L	水酸化ナトリウム 1mol/l。酢酸微量含む。
黄	Mn 廃液（水溶液）	18	2	24	L	Mn は約 1%

【廃棄試薬類リスト】

— 廃棄試薬類のリスト記入に際しての注意 —

*分類番号については、下記参照のこと。判断できない場合は空欄にしておく。

1. 無機物一般(ただし、以下3～11を除く)、2. 有機物一般(ただし、以下3～11を除く)、3. クロム化合物、4. シアン化合物、5. ヒ素化合物、6. 水銀化合物、7. 金属水銀、8. 鉛化合物、9. カドミウム化合物、10. 酸化剤・還元剤、11. ハロゲン含有有機物

*数種類の薬品が混合している場合には、全ての名称を記入する。特に、カドミウム・クロム・鉛・水銀・ヒ素・シアン・セレン化合物が含まれる場合には、必ず銘記すること。

*ラベル破損等により内容物が確認できないものは”不明”と記入する。分類番号は不要。

*風袋の欄には、その容器の大きさ(容量；単位 mL)を記入する。

*総量の欄には 全本数に含まれる総量、例えば[1 本の内容量]×[本数] の値を記入する。なお、原則として単位は、液体は mL、固体は g とする。

*その他の欄には、例えば名称が商品名で記載されているものについては成分等を記入する。また、その他必要事項(爆発の危険性や引火性、毒物や劇物の表示など)があれば記入する。

*試薬名は可能な限り日本語で記入し、略号などは使用しない。

繰り返しになりますが、不要薬品類の有効利用のため、不要でも使用できる薬品は希望者に引き取ってもらいます。作成いただく廃試薬類リストには、該当する薬品名の先頭に「*」を付して頂きますようお願いいたします。

＜提出リストの例（書式）＞

担当教官名：○○○○ 学科：○○○○ 内線：○○○○

分類番号	名 称	容器の風袋 単位：mL	本数	総 量	総量単位 G または mL	備 考
2	ピクリン酸	500	2	1000	g	爆発の危険性有
	不明	500	1	400	mL	

— 廃棄試薬類の保管および業者引渡しに際しての注意 —

*試薬ビンに入ってもきちんと栓がされていないものなど、密封されていない物については透明のやや厚めのポリエチレン製袋で二重に封をし、業者が取り扱いやすいように保管し引き渡すようにしてください。